観光促進委員会が答申

観光協会や観光ボランティアガイドなど観光団体の組織化も提言

第1章の武蔵伝説、いかがでしたか。武蔵とのゆかりを初めて知った人もいれば、興味のあるかたは読破したのではないでしょうか。これと同じく、観光ボランティアガイドの人気が高まっているように、観光客にはありきたりな観光地の説明ではなく「もっと深く知識を得たい」「新しい発見をしたい」という強いニーズがあります。今回、町長の諮問を受け、約2年間をかけて協議を重ねてきた福智町観光促進委員会が答申をまとめ、2月19日に石田和弘委員長が浦田弘二町長に答申書を手渡しました。第2章では、その答申の概要をお知らせします。

01 まちのキラリにつながる提言

観光モデルコースの設定／案内板の設置／特産物開発など

観光資源の有効活用

観光資源の現状把握と利用可能な素材を発掘して、魅力あふれる観光地をめざしていく。

課題に掲げられた項目

- ▶季節別、地域別、来客者年代別（性別）、目的別など、ターゲットを絞ったものになっていない。
- ▶点在する観光スポットを関連付けた「おすすめルート」がない。
- ▶未開発や管理が行き届いていない箇所がある。
- ▶大型観光バスが運行できる（駐車可能な）箇所が限られている。
- ▶平成筑豊鉄道からの利用できる交通機関がない。
- ▶物産所が点在している。
- ▶食事のできる場所が限られている（またはない）。など

現状と課題

福智町は、4百年以上の伝統を誇る「上野焼」の窯元群などのほか、福智山を中心とした北九州国定公園など、歴史的、自然的多数の観光資源を有しています。また、ほうじょう温泉ふじ湯の里、ふるさと交流館日王の湯などの温泉施設には、年間40万人もの来客がありますが。しかしながら、個々には魅力ある観光スポットでありながら、町内に点在する他の観光スポットとの相乗効果を活かしきれていないのが現状であり、福智町への観光客は年々減少の一途をたどり、観光経済の低迷が続いています。

今後の施策

1 観光モデルコースの設定

町内に点在するスポットを対象年齢層・ジャンル別に関連付けたモデルコースを作成しました。【詳細12～13ページ】これらのコースは実際に紹介し、アンケートなどを取りながらリニューアル等を加え、より楽しめるコースとして確立して欲しいものです。そのためには、観光施設や箇所のみならず関係者などの協力・支援体制の強化・組織化が求められます。また、設定コース上で日王山遊歩道や岩屋権現自然公園など、災害で崩落している箇所があり、改善・改修が急務であると同時に、休憩ポイントでの小公園や駐車スペース・公衆トイレ等の整備が必要です。

2 案内板の設置

現在、福智町の観光スポットを巡ってみると案内板の少ないことに気付きます。スポットまでの案内はもちろん、その観光資源に関する歴史や概要などが示されていない箇所が多いです。また、案内板が設置されていても維持管理できておらず劣化しており、狭い範囲の中でもデザインが統一されていません。観光に訪れた人が、ある程度その観光スポットの情報を知ることができるような案内板を町内で統一して設置し、維持管理を行うことが必要です。

02 まちのキラリにつながる提言

観光モデルコースの設定／案内板の設置／特産物開発など

交通アクセスの充実

コミュニティバスや貸切観光タクシーの整備、立ち寄りやすくするための工夫改善を推進。

課題に掲げられた項目

- ▶大型観光バスが運行できる（駐車可能な）箇所が限られている。
- ▶平成筑豊鉄道から利用できる交通機関がない。
- ▶順路の表示が少ない。など

現状と課題

福岡・北九州都市圏から福智町への進入アクセスを考えた場合、国道210号と201号を結ぶ県道22号田川直方バイパスがもっとも利便性が良く、観光客にとっても分かりやすいルートです。また、公共交通機関を利用する場合は、JRを乗り継ぎ、平成筑豊鉄道で移動することとなります。しかし、福智町まで訪れる場合・町内を移動する場合においても、交通アクセスが充実しているとは言い難いのが実情です。それは、観光バスの利用だけでなく、公共交通機関を利用する場合についても同様です。

今後の施策

1 観光スポット周辺の道路・駐車場等の整備

現在、大型観光バスが駐車できる観光スポットは、上野の里ふれあい交流会館・日王の湯・ふじ湯の里・その他小数の施設に限られています。福智町を訪れたのはいいが、駐車場がなくゆっくり観光できなかった、また地図には書かれているのに荒れていてとても車が通れるような場所ではなかったとなれば、マイナスなイメージが残るばかりで、再びここを訪れようとは思えなくなります。福智町は周りを山々に囲まれており、山道が多く、道幅の拡張工事も思うように出来ないのが現状ですが、主要観光スポット周辺の道路を整備し、大型バスが駐車できるよう整備する必要があります。

2 公共交通機関とのリンクと利用促進

マイカーや観光バス等以外で福智町を訪れる観光客は公共交通機関を利用することになりますが、平成筑豊鉄道の各駅から先の移動手段がなく、結局タクシーを利用することが多いのが実情です。公共交通機関とリンクさせ、観光客が利用しやすく待ち時間も少ないコミュニティバス等の運行整備が必要不可欠です。さらに貸切観光タクシーの育成等を行い、少人数の観光客にも対応できる体制を整える必要があります。

3 特産物開発と特産館の今後

「食」に対する人々の関心や行動力は、とても大きなものです。どんなに交通の便が悪くても、どんなに待ち時間が長くても、おいしい食べ物があるところには必ず人が集まります。その行動力を上手く利用すれば、観光入込み客数を増加させることは難しくはありません。

福智町には、豊かな自然で育まれた「米」、さわやかな甘さが特徴の「梨」、大手百貨店からの注文も多い「いちじく」が話題となっているなど、様々な魅力を秘めた農産物や特産品が数多く生産されています。

また、販売拠点についても、民間物産所のほか旧3町ごとに物産館、朝市が設置され運営されています。物産館等に立ち寄るお客は、商品のおいしさ・低価格はもちろんのこと、生産者の顔が見える農産物や加工品の豊富さが最大の魅力でもあります。

しかしながら、農業生産者の高齢化問題や担い手不足等、地域によっては将来にわたる農業生産量減少が危惧されます。今後も、観光資源としての農業振興を図ると同時に、更なる農業施策の強化・発展を切望するものです。また、上野焼と特産品、「伝統文化」と「食」を組み合わせた商品の開発のほか、そば打ちや果物狩りなど体験イベントの企画をさらに進めていく必要があります。そのほか、団体客受け入れの食事場所が限定され、特に上野地区周辺には少なく、滞在時間を延長させる意味でも、食事を提供する施設の整備や開設者への支援も必要です。

REPORT

視察活用 山口県岩国市観光ガイドボランティア協会ほか

福智町観光促進委員会は昨年、中国地方の観光地で人気第1位の山口県岩国市を視察し、先進的な取り組みの一部を今回の答申に盛り込みました。岩国市観光ガイドボランティア協会は、岩国市主催の養成講座で人材を育成。岩国駅までガイドが市営バスで出迎えて無料ガイドする「ディスカバーウエストハイキング」や市内をガイドの案内で歩く「JRふれあいウォーク」などの取り組みとガイドの活躍が観光都市岩国を支えています。なお、毎日6時半から、シルバー人材センターの皆さんが観光スポットの丁寧な清掃活動に汗を流していたのが印象的でした。

【山口県岩国市】人口約15万人、年間約400万人が訪れるという中国地方を代表する観光都市。名勝の錦帯橋、岩国城、国指定天然記念物の白蛇生息地などで知られている。佐々木小次郎の像もある。